

## 詩篇119篇89～96節

- 89 主よ。**あなたのことば**は、とこしえから、天において定まっています。
- 90 **あなたの真実**は代々に至ります。あなたが地を据えたので、地は堅く立っています。
- 91 それらはきょうも、**あなたの定め**にしたがって堅く立っています。すべては、あなたのしもべだからです。
- 92 もし**あなたのみおしえ**が私の喜びでなかったら、私は自分の悩みの中で滅んでいたでしょう。
- 93 私は**あなたの戒め**を決して忘れません。それによって、あなたは私を生かしてくださいましたからです。
- 94 私はあなたのもの。どうか私をお救いください。私は、**あなたの戒め**を、求めています。
- 95 悪者どもは、私を滅ぼそうと、私を待ち伏せています。しかし私は**あなたのさとし**を聞き取ります。
- 96 私は、すべての全きものにも、終わりのあることを見ました。しかし、**あなたの仰せ**は、すばらしく広いのです。

לְעוֹלָם יְהוָה דְּבָרָךְ נֶצְבָב בַּשָּׁמַיִם:  
 לְדֹר וָדֹר אֲמוֹנֹתֶךָ כּוֹנֵנֶת אֶרֶץ וְתַעֲמֹד:  
 לְמִשְׁפָּטֶיךָ עֲמָדוֹ הַיּוֹם כִּי הַכֹּל עֲבָדֶיךָ:  
 לִי לֵי תוֹרָתֶךָ שְׁעִשְׁעֵי אֲז אֲבַדְתִּי בְעֵגְיִי:  
 לְעוֹלָם לֹא־אֲשַׁכַּח פְּקוּדֶיךָ כִּי בָם חֵיִתַּנִּי:  
 לֵךְ־אֲנִי הוֹשִׁיעֵנִי כִּי פְקוּדֶיךָ דָּרְשָׁתִי:  
 לִי קוֹי רְשָׁעִים לְאַבְדֵנִי יַעֲלֶתֶיךָ אֶתְבוֹנֶנּוּ:  
 לְכֹל תִּכְלֶה רְאִיתִי קֶץ רַחֲמֶיךָ מִצְוֹתֶיךָ מְאֹד:

第十二字「ラーメド」は、「1」に相当する子音です。「～に」を意味する前置詞として使われることが多い文字です。

עוֹלָם / オーラーム……長い期間、古代、いつまでも、とこしえに (89, 93)

דֹּר / ドール……時代、世代、住まい (90)

מִשְׁפָּט / ミシュパート……裁き、正義、命令 (91)

לֹא / ルーレー……～なしに、もし～なくとも、～を除いて (92)

לֵךְ / レカー……なんじのもの、なんじの (94)

אֲנִי (לִי) / アニー……私に (95)

כֹּל / コール……すべての (96)

本篇では、神のことばが永遠より「天に」しっかりと据えられていることが強調されています。

**あなたのことばは、とこしえから、天において定まっています。(89 節)**

万物を支配するために神の法が定められ、その秩序は何者にも変更することができない。神は「天」だけではなく「地」にも法を据えられました。

**あなたの真実は代々に至ります。あなたが地を据えたので、地は堅く立っています。(90 節)**

「地」もまた「天」の一部。神の配慮は、人間はもちろん、地の微生物にまでも及びます。

**それらはきょうも、あなたの定めにしたがって堅く立っています。すべては、あなたのしもべだからです。**

(91 節)

繰り返し「定め」ということばが用いられ、世界で起きるすべての出来事が神の摂理の下にあることが強調されています。このことばの原意は「さばき」または「判決」ですから、神の正しい判断の下にこの世の秩序が成り立っているということが言われているのでしょう。

**もしあなたのみおしえが私の喜びでなかったら、私は自分の悩みの中で滅んでいたでしょう。(92 節)**

詩人にとって、神のことばは「喜び」でした。人生の「悩み」(苦しみ)に苛まれながらも、神の教えに聞き従うところには喜びがあったのです。

**私はあなたの戒めを決して忘れません。それによって、あなたは私を生かしてくださったからです。(93 節)**

詩人は苦難の中であって、神のことばを思い出し、生かされていることを知りました。苦難の日々にこそ、神を身近に感じる事ができたのです。

**私はあなたのもの。どうか私をお救いください。私は、あなたの戒めを、求めています。(94 節)**

「神のもの」とされた存在として現実の苦しみからの解放を求め、尚も自分の人生の礎を神の「戒め」に置こうとしています。

**悪者どもは、私を滅ぼそうと、私を待ち伏せています。しかし私はあなたのさとしを聞き取ります。(95 節)**

これは比喩的な表現だと思われそうですが、詩人に敵対する者たちは、どうにか彼を畏にかけてやろうと待ち構えていたのでしょう。人が最もはめられやすいのは「言葉尻を捉えられる」ことでしょう。文脈を無視して切り取られる言葉は、現代においても多くのトラブルを引き起こしています。

**私は、すべての全きものにも、終わりのあることを見ました。しかし、あなたの仰せは、すばらしく広いのです。(96 節)**

本節は極めて箴言的な表現になっています。御言葉によって悟りが与えられた詩人。彼の心は大きく開かれ、今威張っている人は束の間であり、神の御言葉は永遠であることを知りました。このことは私たち読者の心にも深く据えられる必要があるでしょう。地上の繁栄を求めるのではなく、天に宝を積むことこそ、神の御前に「広がり」を持つ人生となるのです。見えるところがすべてではないということをお忘れることなく、誰も見ていないところで豊かさが増し加わる人生を目指していきたいと思えます。